

●「第四のライン」シリーズの新製品は従来品よりさらに進化。「第四のルアーライン」は製法に磨きをかけ、細く強くなり、触り心地もなめらかになった。「第四のボーダレスハリス」はライン自体に張りを持たせ、絡みにくく扱いやすい仕上がり。

**■タングステン複合リーダー**



★タングステンとポリアリレート複合ライン。高比重、高強度で根ズレや鋭い歯にもビクともしない強度を誇る。タングステンには結ばないという常識を翻し、リーダーやハリへの結節も可能。  
Spec: 0.2 (5), 0.3 (6.5), 0.4 (9), 0.5 (11), 0.6 (13), 0.8 (15), 1 (17), 2 (34), 3 (44), 10 (113)号の各種。長さは各10m巻き、カラーはダークレッド、ダークグリーン、価格はオープン。

**■第四のルアーライン**

★高比重、高強度の素材ポリアリレート採用の道糸。独自のヨリ糸技法で素材の滑らかさも追求。伸度3.2%、比重イメージ2のハイブリッドライン。  
Spec: 0.2 (6), 0.3 (7.5), 0.4 (9), 0.6 (16), 0.8 (20), 1 (25), 1.5 (35)号の各種。号数により100、150、200、300m巻きを用意。カラーはレッド、ホワイト、イエロー、価格はオープン。



**■第四のボーダレスハリス**



★同じくポリアリレートの特長を活用したリーダー。適度な張りや吸い込みやすいしなやかさを持つ軟質軽量リーダー。魚に警戒心を与えないダークレッド、ダークグリーン。  
Spec: 0.2 (5), 0.3 (7), 0.4 (9), 0.6 (12), 1 (18), 4 (60)号の各種。長さ各30m巻き、価格はオープン。

※Spec( )内はマックスポンド数



▲30センチ前後の良型が交じった  
▼アジでお土産はバッチリ



▲コマセが効いてくるとアジが連発  
タングステン複合リーダー



▶「テンピンの上にタングステン複合リーダーを付けたら感覚がよくなった気がします」と園部さん



▼リーダー  
△道糸



**【各ラインの結節法】**  
●第四のボーダレスハリスをスイベルなどの金具に結ぶときは2重にして電車結び3〜5回、緩く締めて瞬間接着剤を使用。ライン同士も同様だが、FG、PRノットでも結束は巻き終わったら編み込みをしないで瞬間接着剤を使用。  
◀道糸(第四のルアーライン)とリーダー(第四のボーダレスハリス)の接続は電車結び2回、接続部とその上下10センチに瞬間接着剤を塗り、余分な端糸を切り完了

**最強ラインで  
テンヤタチウオに挑む**



★「クリアラインでなくとも遜色なく食ってきました」と加藤正士さん

★最大は佐川氏が上げた120センチ級のタチウオ

内房上総湊出船  
タチウオ仕掛けに新提案  
第四のルアーライン、  
第四のボーダレスハリス

◎「第四のライン」でおなじみの北越産業。ソルトルアー&沖釣り用ライン「タングステン複合リーダー」「第四のルアーライン」「第四のボーダレスハリス」が好評発売中だ。今回はそれらのラインを使用したアジ&テンヤタチウオのリレー釣りの模様をお届けする。



▲「第四のルアーラインは沈みも早いし、潮切りもいいので使いやすい」と平野さん  
▼「良型でも安心してヤリトリできます」と園部さん絶賛

★タチウオの釣り場は観音崎沖の水深75メートル前後

▶小型電動には第四のルアーライン0.8号200メートル  
◀単色の白なので油性ペンでマーカー(目印)を付けるとタナ取りしやすい

東京湾のタチウオが中大交じりで好調に釣れている。北越産業の平野和之さんも数回の釣行を重ねて、ドラゴン級を釣り上げていると言う。  
今回はテンヤタチウオで「第四のルアーライン」「第四のボーダレスハリス」を試してもらいたいとのこと、釣り仲間やダイワのアユフィードテスター小峰和美さん、シマノのアユインストラクター加藤正士さん、園部康弘さん、佐川仁さん4人を伴い、内房上総湊の船宿から出船した。6時に港を離れ、まずは真沖でアジを狙う。  
「水深12メートル、タナは底から3メートルです」  
平野さんと園部さんは片テンピンの上にポリアリレートラインとタングステン複合ライン「タングステン複合リーダー」を付けたシステムでスタート。  
コマセが効いてくると30センチ前後のアジが次つぎに取り込まれ、「感覚がいいので小さいアジが取れるようになりました」と園部さん。  
7時半、全員がアジを釣り上げたところで観音崎沖へ移動し、テンヤでタチウオを狙う。  
全員が使用する仕掛けは図にあるとおり、道糸には「第四のルアーライン」0.8号、ポリアリレートを採用した8本ヨリラインで強度は20ポンド(9キロ以上)。リーダーは「第四のボーダレスハリス」4号1.5メートル。ポリアリレートは素材としており、強度は60ポンド(27キロ以上)を示す。  
「水深74メートル。下から58メートルまで探ってください」との合図で開始。ストップ&ゴーで誘っていた平野さんが1メートル級のタチウオを取り込み、続いて園部さんも同サイズのタチウオを釣り上げた。  
フロロカーボンなど透明のラインに比べて食いが心配されたが、ダークレッドカラーの第四のボーダレスハリスでも遜色なく食ってくる。  
小峰さん、加藤さん、佐川さんは、この釣りに精通している園部さんのアドバイスを受けテッドスローで誘う。  
その後、小峰さんが110センチ級のタチウオをキャッチ。続いて佐川さんと加藤さんがオマツリしながら、それぞれ同サイズのタチウオを取り込んだ。  
「第四のボーダレスハリスは適度に張りがあるので、オマツリしてもほどこしやすいですね」と加藤さん。  
「今回アジで使ったタングステン複合リーダーは、このハリスの先に結びバイトリーダーとして使うことができます。タングステンを編み込んでいたためワイヤーとは違いますが、タチウオ釣りですときは船宿で確認をしてください」と平野さん。  
やがて佐川さんが当日最大の120センチ級のタチウオを上げたところで13時に沖揚がり。みなさん110センチ級のタチウオを釣り、ほくほく顔で帰港した。